



よしかわ まなみ
吉川 真波さん

● 吉水小6年

将来の夢

私は将来、音楽に関する仕事がしたいと思っています。音楽は人を勇気づけたり、感動させたり出来るからです。

私は今までいろいろな人のライブに連れていってもらいました。去年は東日本大震災復興ライブにも行きました。

歌や音楽はたくさんの人を笑顔にしたり、元気を与えたり、あらためて音楽のもっているパワーはすごいと感じました。私はそんな音楽が大好きです。

**みんなの広場に
出てみませんか？**

「すてきな仲間たち」「めおと人生」に登場していただける方を募集しています。自薦・他薦は問いません。

※「すてきな仲間たち」「めおと人生」は隔月で掲載します

■問合せ 政策調整課広報広聴係
☎(20)3037

Q 今後の抱負は
幸 これまで皆さんの協力を得て、さまざまな役割を務めさせていたいただき

Q 夫婦円満の秘訣は
幸 お互いを思いやる気持ちです。

Q 退職後、開いてくれたお祝いの会で、教え子たちに送ってもらった感謝状が宝物です。

Q 教員を42年勤めました。退職後、開いてくれたお祝いの会で、教え子たちに送ってもらった感謝状が宝物です。

Q 結婚何年目ですか
幸 昭和37年に結婚し、今年で50年目です。

Q これまでで印象に残っている出来事は
幸 子育てや仕事など、毎日の生活を普通に過ごしてきた50年ではありますが、今年、金婚式を挙げられ、感無量です。

めおと人生
meoto life

野城 ^{ゆきお}幸男 さん(79歳)
^{さかえ}紗加江さん(76歳) 田沼町



万感の思いで迎えた金婚式

したが、今後はそうした役職を次の方へ引き継いでいきたいです。
Q 旅行に行くなど、二人でゆつくり、のんびり過ごしたいです。
Q 若者へのメッセージを
幸 仕事であったり、結婚であったり、早いうちにしっかりとした生活の基盤を整えてください。そしていろいろなことに挑戦してほしいです。
現在も佐野市レクリエーション協会の会長を務める幸男さん。外で活躍する幸男さんを、家庭では紗加江さんが支えています。
野城さんご夫妻、これからもお幸せに。

今回の表紙 「稲刈り」 旗川小・旗川地区

10月20日(土)、気持ちのいい秋晴れの中、旗川地区では旗川小の児童たちが稲刈りを行いました。

児童たちは地域の方々に教えてもらいながら、鎌をつかい、稲を刈り、小さなからだいっぱい稲を抱え、首を垂れる稲穂の重みを感じることで、食物のありがたみを学びました。



わかばやし ほずま
若林 秀真さん
(大祝町)



○プロフィール
大祝町に百六十年続く若林
造所の五代目。奈良東大寺の
大仏釜などを製作。天明小な
どに育成講座を持ち、技の伝
承を続ける。「スピリチュア
ル・ファウンダ」を志す鋳物
師。現在59歳



鋳物師は、神様と人を
繋ぐ仕事です

皆さんは佐野が日本で最も古くか
ら続く鋳物の街であることをご存知
ですか。

最初は、鍬や釜など生活用具とし
て造られた鋳物が、安土桃山時代
には、素朴で力強い天明釜として全
国に名を広めたそうです。今回は、大
祝町にある若林鋳造所の五代目とし
て活躍中の、鋳物師・若林秀真さん
にお話を伺いました。

栃木工業高校(栃工)を卒業と同
時に、父・彦一郎氏のもと、鋳物の
道に入った秀真さん。「自分の造つ
た、神社やお寺の鐘の音を聞いて、
思い悩んだ人が、一人でもハッと心
を開いてくれればいい」と、若いな
がらに考えたそうです。それから
四十年、奈良東大寺の大仏釜や唐沢
山神社の神鈴、朝日森天満宮の神籠
など、お茶の道具や神社の宝物をは
じめ、母校・栃工の創立五十周年モ
ニメントなど、たくさん作品を
収められています。

「先祖様とタッグを組んで、一緒
に仕事をしている気持ち」、「僕の
造った茶道具が千利休の時代の物と
並ぶこともある。すごいでしょう」
と心は、千年の時を駆け登ります。

また、「私の仕事は、神様と人を
繋ぐこと」と語るように、二年前か



▲鋳造所での「後継者育成講座」

ら京都のある寺院の薬師堂の鐘の製
作に取り組んでいます。とても難し
い仕事ですが、「神様どうぞ私を使っ
てください」と手を合わせると、自
然と力が湧いてくるそうです。

作品と同様に価値のあるものは、
鋳造所で所蔵し、先祖から受け継が
れて来た千四百五十三点の鋳造道具
です。昨年、栃木県有形民俗文化財
に指定を受けました。大切に保存さ
れたこの道具たちに会うことができ
ます。奥様の典子さんが点てるお茶
をいただきますながら、千年の時に想
いを巡らせてはいかがでしょうか。

余談ですが、秀真さんは酒造業を
営む我が家の酒米を蒸す大釜を何度
も修理されたそうです。佐野に生き
る鋳物師のもう一つの姿を見たよう
です。「天明鋳物の街、佐野」は、
これからも脈々と続くことではし
ょう。(市民記者 吉井貴子)

市長からの
メッセージ



季節はすっかり秋本番を迎え、空高く、すがすがしい
日々が続いております。スポーツの秋、芸術の秋、食欲
の秋。さまざまな「秋」がございますが、皆さんはどの
ような秋を過ごされているでしょうか。

先月は市内各地で体育祭、文化祭、敬老会、そばまつ
りなど多くの行事が開催されました。わたしも各会場で
皆さんのさわやかな笑顔に接し、たくさんの方の元気をいた
だくことができました。

5日に開催された金婚記念式典では金婚式を迎えた84
組の方に慶祝状をお贈りいたしました。実は私もこの中
の1組でございます。皆さんと喜びを分かち合うこと
もに、まさに半世紀、共に支え合った妻にあらためて感
謝をいたしました。

28日には、「まんが田中正造発刊記念シンポジウム」
にパネラーとして参加いたしました。来年の正造翁没後
百年に向け、今後、さまざまな顕彰事業を通じ、翁の功
績を全国に発信してまいりたいと考えております。

また、ブランドキャラクター「さのまる」が、親善都
市・彦根市で開催された「ゆるキャラまつり」に参加し
てまいりました。現在行われている「ゆるキャラグラン
プリ2012」では800近くのキャラクター中で4位、
5位争いを繰り広げています。上位入賞を果たせば相当
な経済効果も期待できますので、市民の皆さんの力でぜ
ひともベスト3入りを目指しましょう。11月16日の投票
終了まで、皆さんの投票をよろしく願います。
朝晩はめつりり冷え込むようになってまいりました。
体調を崩さぬよう、お過ごしください。

岡部正英